

1. 小田原市の考える脱炭素型の地域交通モデル

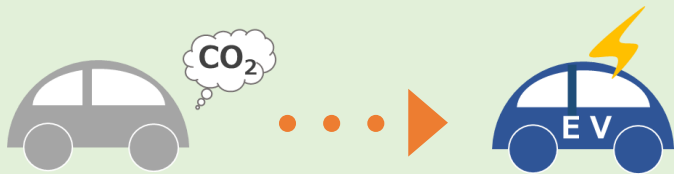
- 脱炭素型の地域交通モデルに求められる要素は、単に排出がゼロな車両というだけでなく、①再エネの需要を牽引（DR）、②地域のエネルギーインフラの一部として機能（VPP）、③シェアリングエコノミー、④防災性の向上など、複層的な意義を持つこと。
- 複数のセクターが連携し、EVの持つポテンシャルを最大限発揮、新たな価値を生み出すことが脱炭素型の地域交通モデルには求められる。

脱炭素型の地域交通モデルのイメージ

地域が取り組む意義

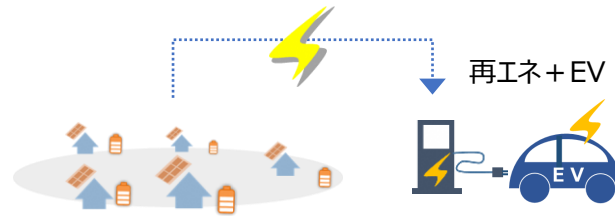
EVへの転換

（環境負担の小さな車両に転換）



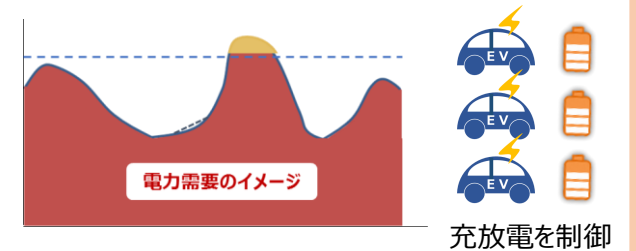
①再エネの需要を牽引

（地産再生可能エネルギー需要の創出）



②地域エネルギーインフラ

（地域エネルギーマネジメント、VPP）



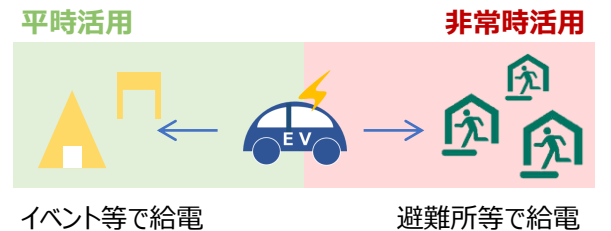
③ライフスタイルの転換

（シェアリングエコノミー、行動変容）



④地域課題解決への貢献

（地域防災性の向上、新たな価値創出）



2. EVを活用した脱炭素型地域交通モデル（EVのマルチユース）

- シェアリングEVを、車両としての活用だけでなく、“動く蓄電池”として地域エネルギーインフラの一部として活用する、脱炭素型の地域交通モデル。
- 2020年6月からサービスを開始し、現在では市内 38台 20ステーション、市外を含めると合計 51台 29ステーションを展開。

① シェアリングEVとしての活用

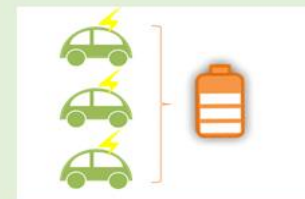
- 地域における交通手段の確保
- EVシフト
- 車両台数の最適化



地域のカーシェアリング



充電 / EVからの放電



登録から利用まで、スマートフォンで完結。
かんたん操作で、使いたいときに、使いたいだけ利用できます。

24時間
365日使える

step1 入会 step2 予約 step3 運転 step4 返却

ご利用方法を詳しく見る ご利用方法を動画で見る

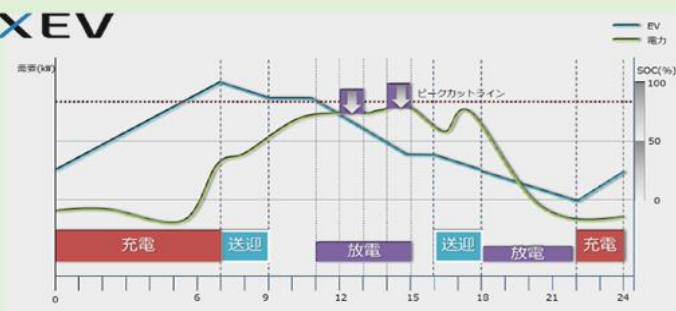
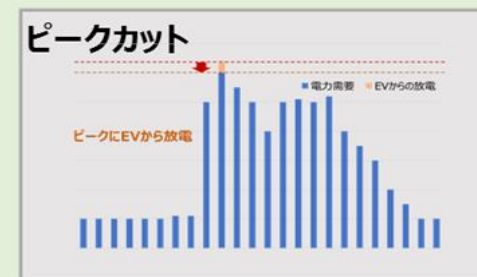
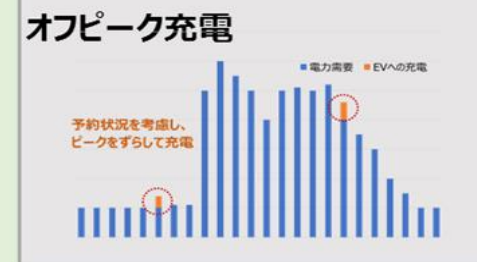
予約後すぐに使えます！



REXEV

② “蓄電池”としての活用

- 再エネ優先充電
- ピークカット
- オフピーク充電



3. EVを活用を核にした取組の発展と公民連携の拡大

- EVを活用した地域エネルギーマネジメント事業の発展を核に、MaaS連携やイベントでの活用、そして移住促進やワーケーションなどの新たな潮流にも絡めながら、取組を拡大。
- 市主導によるオープンイノベーションの場の創出を通じ、新たな価値創出とそれを可能にする公民連携の継続的な発展を図っていく。

● 地産再エネ需要の創出（カーボンフリー電力供給）



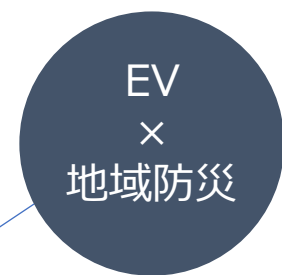
一部のステーションで湘南電力のカーボンフリー電力を活用

● 電力逼迫時のVPP活用

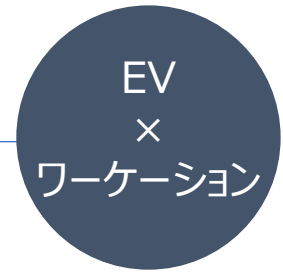


逼迫時間帯に市内の複数台のEVから一斉放電

● 地域マイクログリッドでの活用



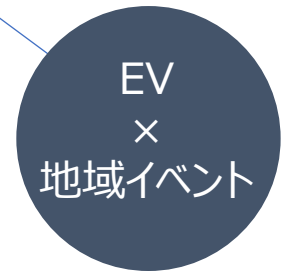
● 災害時のEV派遣及び電力供給



● 動く蓄電池としてのEV活用



キャンプ場でのワーケーションプラン



● イベントの発電機を代替し脱炭素

